



上石小だより

～ やさしさ かしこさ たくましさ ～

第 10 号
令和 2 年 2 月 3 日
練馬区立上石神井小学校
校長 井口 洋

「貫き通せば 本物になる」

副校長 中山 幸子

これは私が高校時代に楽しんだ漫画に登場するお婆さんが、悩んでいる主人公へ発した言葉の一部です。その言葉の前には「どんな馬鹿げたことでも」が付いていました。高校生だった私は「本物かあ」と感慨にふけりました。強い、熱い思いをもち努力を惜しまず続ければ、本物として認められるのだと感じたからです。(馬鹿げたこととは法に触れない範囲のもので、悪事を示すものではありません。)

“どんな馬鹿げたことでも、貫き通せば本物になる”例えばギネス記録もその一つではないでしょうか。自分があまり思い入れのない分野や、ふざけているのかと思うような挑戦をしても、ギネス記録保持者であると知ると凄い人なんだなと見方が変わり、その頑張りに敬意をもつ場合もあります。

また、漫才のチャンピオンに輝いたコンビが、漫才をやめていた2年間を経てやっぱり漫才はなくてはならないものと再認識できたからこそ、さらに漫才に向き合えた結果が優勝(チャンピオン)であったという経緯から、ブランクも貫き通すのに必要なプロセスだったと考えます。

しかし、途中で諦めたり、忙しさに振り回されたりしてやめてしまう人も少なくありません。才能という壁や時間、経済的な面の制限などが立ちはだかるかもしれません。自分の力では乗り越えられない場合はどうやって進んでいくかを考えなくてはなりません。仲間の協力やそれまでの経験から得たものを活かし打開していく過程に、答えがあります。その人がなれる「本物」への方向転換につながるかもしれません。そんなときは『道に迷えばその分、道を覚える』という時間を過ごしているのだと思っしてほしいのです。

ここで言う、「本物」とは、記録保持者や優勝者として表彰されるものだけを指しているわけではありません。知名度がなくても、私たちの周囲で「あの人は本物だ」「あの人は間違いがない」などと認められている人や「〇〇のことなら、あの人に聞くといい」と太鼓判を押されている人もその分野に精通している(専門家)と評価されます。無名でも「本物」と信頼される人たちはたくさんいるのです。諦めずに、研鑽を積み、誠実に、正直に努力を続けた先に、周囲から本物と思ってもらえるのだと思います。

上石神井小学校の子供たちは「本物になれる土台づくりの時期」にあると考えてかかわっています。

私たち大人も、「本物」として子供たちに捉えられているか、日々、自問自答し精進していきたいと思っています。

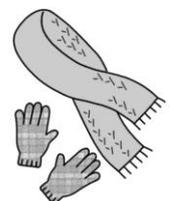
2月行事予定

- 3(月) クラブ(3年生見学)
- 4(火) 避難訓練
- 6(木) B時程(全学年)、1年生4時間授業
新1年生保護者会
- 7(金) たてわり給食・遊び
- 8(土) 学校公開(公開は1.2時間目のみ)
水曜時程4時間授業
道徳授業地区公開講座
- 10(月) クラブ(3年生見学)
- 12(水) 4時間授業 下校13:10
- 13(木) お別れスポーツ大会(5.6年5.6校時)
- 17(月) クラブ(最終)
- 25(火) B時程(全学年)、社会科見学(6年)
保護者会(1.2年)
- 26(水) 6年生を送る会(3.4校時と給食)

- 27(木) B時程(全学年)、5時間授業(5.6年)
祝う会(6年)、保護者会(5.6年)
- 28(金) B時程(全学年)、5時間授業(3.4年)
保護者会(3.4年)

3月行事予定

- 2(月) 委員会(最終)
- 4(水) 避難訓練
- 16(月) 1年生4時間授業
2~6年生5時間授業
- 23(月) 給食終
- 24(火) 修了式
- 25(水) 卒業式



校内書き初め展

子供たちは書き初めの学習を通じて、文字を正しく整えて書くことの大切さに気付くとともに、日本の伝統的な行事の良さを味わっていたようです。これからも年間を通した書写の授業や、日常的な字を書く活動に、気持ちを込めて取り組んでほしいと思います。子供たちの感想を紹介します。

【1年生】

- ・さいしょはうまくなかったけど、だんだん慣れてきました。
- ・かきぞめてんにえらばれてうれしかった。
- ・れんしゅうしたのでよくできた。

【2年生】

- ・形をていねいに書くことがむずかしかった。
- ・友だちの書いた字がじょうずで、自分もがんばった。
- ・せい書を書くのが楽しかった。

【3年生】

- ・初めての毛筆、バランスよく書くのが難しかった。
- ・初めての習字でしたが、みんなが同じではなく一人一人の個性が出ていてよかったです。

【4年生】

- ・4文字のバランスをとるのが難しかったです。
- ・6年生は字がきれいで、大人に向けての決意を感じました。
- ・最高の字を書けてよかったです。

【5年生】

- ・自分を勇気づけて書いたらよい字が書けました。
- ・練習では失敗した字の大きさが上手くいってよかったです。
- ・落ち着いて書けました。

【6年生】

- ・どの学年も、一生懸命書いたのが作品から伝わってきた。
- ・今までで1番いい字が書けた。
- ・中学生になったら今よりもっときれいに書けるようにしたい。

また、先月の1月25日（土）、26日（日）に練馬区立美術館で練馬区小学校連合書写展が開催されました。本校からも1、2年生は硬筆、3～6年生は毛筆を出品しました。各校から選ばれた作品が一堂に集まった練馬区小学校連合書写展では、文字に対する興味や関心が高まったことと思います。

たてわり班活動

特別活動委員会

上石神井小学校のたてわり活動は、集団登校以外でも異学年での交流をもちたいという、上石神井小の先輩たちの思いからはじまりました。約20年たっても、その思いは受け継がれています。

各クラスに集まった、たてわりグループ。6年生が中心となって給食の準備が始まります。5年生が給食当番、4年生が配膳です。6年生は給食から遊びまでの予定を黒板に書いたり、給食時にはみんなが楽しく給食を食べられるような工夫をしたり、遊びを仕切ったりと、上級生としてたくさん動いてくれています。

今年度から4・5年生も中心となって、遊びを考えたり、進行したりしてくれています。上級生は下級生が楽しく遊んでいるか気かけながら、下級生は上級生の足の速さや俊敏さを肌で感じながら、異学年交流をしています。

異学年で交流することにはたくさんの良さがつまっていると感じています。異学年交流を通して心の豊かさが育っていくことを願っています。



主事室より

用務主事 澁谷 涼

すっかり冬景色となっている学校の敷地で、春を告げるスイセンの花やふくらみ始めた梅の花が見られるようになりました。

まだまだ寒さが続きますが、こうした便りを見つけて嬉しくなるのも2月の時期ならではの楽しみです。皆さんも咲き始めたスイセンの花を見つけられたら、香料の材料にもなっている甘い香りを楽しんでみてくださいね。

2月の生活目標

寒さに負けない体をつくろう

寒さが厳しくなり、インフルエンザが流行しています。本校では、10月と11月に学級閉鎖を実施しました。今後もまだ流行する可能性があります。バランスのよい食事と規則正しい生活を心掛け、運動をして体を鍛え、抵抗力を高めましょう。運動後は冬でも汗をかきます。肌着を着用し、汗の始末も忘れずに行い、寒さに負けない体をつくりましょう。

学校では、手洗い・うがい、衣類の調節など『自分の体を守るための行動』と、体調不良時のマスクの着用・咳エチケットなど『他の人にうつさない行動』の指導を行っていきます。御家庭でも、登校前の健康観察、ランドセルにマスクの常備などの御協力を引き続きお願いいたします。